

長期入院療養中の高校生の学習支援について

～ICTを活用した遠隔教育の事例から 成果と課題～



医教連携アドバイザー
元京都市立特別支援学校 教諭

篠原 淳子

お話の流れ

1. 教育制度の見直し



2. 京都市における高校生支援の進め方

3. 学習支援の様子と成果

4. 課題～高校生支援の理解・啓発に向けて～

教育制度の見直し

平成27年 学校教育法施行規則改正

遠隔教育の制度化

平成28年度～30年度

入院児童生徒等への教育保障体制整備事業

令和元年 文部科学省通知

受信側の教員の配置要件の緩和

令和元年度～2年度

高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業

令和2年 学校教育法施行規則改正

同時双方向型授業の単位習得数上限緩和

令和3年度～4年度

高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業

新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）（令和元年6月）

【取り組むべき施策】

高等学校段階の病気療養中等の生徒に対する遠隔教育の要件（**受信側の教員の配置要件や単位修得数等の上限**）を緩和。

遠隔教育（メディアを利用して行う授業※）の要件・留意事項

● 対面による授業の実施

教科・科目等の特質に応じ、対面により行う授業を相当の時間数行うこと。

（27年告示第92号）

● 単位修得数等の上限

全課程の修了要件として修得すべき**74単位のうち、36単位を超えないもの**とすること。

※特別支援学校高等部において、修了要件が異なる場合は、その1/2未満までを上限とすること。

（学校教育法施行規則第96条第2項、第135条第2項）

● 受信側の教員配置

原則として当該高等学校等の教員を配置（当該教科の免許保有者以外でも可）

（27年施行通知）

● 配信側の教員配置

高等学校教諭等の身分を有する当該教科の免許保有者

（27年施行通知）

病気療養中等の生徒に対する特例

● 単位修得数等の上限の緩和

令和2年4月、学校教育法施行規則改正

病気療養中等の生徒の教育機会を確保する観点から、**上限を超える単位修得等を認める。**

※訪問教育において、メディアを利用して行う授業を実施する場合も上限を超える単位修得数等を認める。

● 受信側の教員の配置要件の緩和

令和元年11月通知

受信側の病室等に当該高等学校等の教員を配置することは必ずしも要しない。ただし、以下の点に留意すること。

◆当該高等学校等と保護者が連携・協力し、当該生徒の状態等を踏まえ、体調の管理や緊急時に適切な対応を行うことができる体制を整えること。

◆配信側の教員は、受信側の病室等で当該対応を行う者と連携・協力し、当該生徒の日々の様子及び体調の変化を確認すること。



※メディアを利用して行う授業：同時双方向型（学校から離れた空間へ、インターネット等のメディアを利用して、リアルタイムで授業配信を行うとともに、質疑応答等の双方向のやりとりを行うことが可能な方式）の授業であって、対面により行う授業に相当する教育効果を有すると認めたもの。

※モデル事業 各年度成果報告

文部科学省HP>教育>特別支援教育>特別支援教育について>[15. 実施事業](#)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006.htm

お話の流れ

1. 教育制度の見直し

2. 京都市における高校生支援の進め方



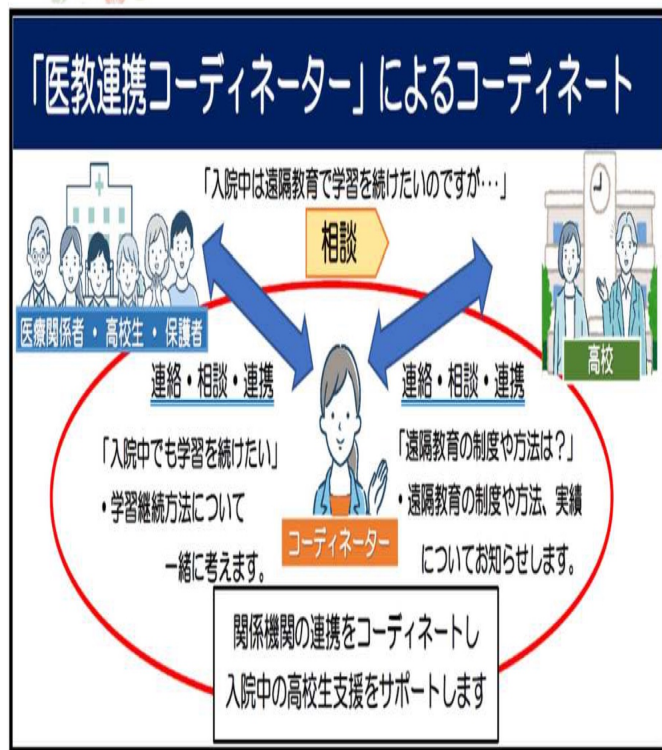
3. 学習支援の様子と成果

4. 課題～高校生支援の理解・啓発に向けて～

特別支援学校のセンター的機能の活用

医教連携コーディネーターの配置

(特別支援教育コーディネーターに役割付)



<具体的な活動例>

- ・入院する高校生・保護者の気持ちの傾聴
 - ・学習に関する不安や願いの傾聴
- ・高等学校への情報提供と協力
 - ・病院側と入院生徒の様子との共有
 - ・定期考査のサポート
- ・医療関係者と高等学校の情報共有
 - ・学習指導計画と治療計画の共有

医療と教育が情報を共有し協力することで、できることがある。丁寧な情報共有のためには医教連携をコーディネートする機能が重要である。

お話の流れ

1. 教育制度の見直し

2. 京都市における高校生支援の進め方

3. 学習支援の様子と成果



4. 課題～高校生支援の理解・啓発に向けて～

高校生支援相談件数

| 課程 | 設置 | 平成29年度 | | | | 平成30年度 | | | | 令和元年度 | | | | 令和2年度 | | | | 令和3年度 | | | | 令和4年度 | | | | | | | |
|-----|--------|--------|------|------|------|--------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|--|--|--|--|
| | | 相談件数 | 配信希望 | 配信実施 | 出席認定 | 相談件数 | 配信希望 | 配信実施 | 出席認定 | 相談件数 | 配信希望 | 配信実施 | 出席認定 | 相談件数 | 配信希望 | 配信実施 | 出席認定 | 相談件数 | 配信希望 | 配信実施 | 出席認定 | 相談件数 | 配信希望 | 配信実施 | 出席認定 | | | | |
| 全日制 | 京都市立 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | |
| | 京都府立 | 2 | 2 | | | 3 | 1 | 1 | | 3 | 2 | 2 | 2 | 4 | 3 | 3 | 3 | 10 | 10 | 10 | 9 | 5 | 5 | 5 | 5 | | | | |
| | 京都私立 | 1 | | | | 4 | 1 | | | 5 | 3 | 1 | 1 | 4 | 3 | 3 | 3 | 1 | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | |
| | 他府県立 | | | | | 2 | 2 | | | 4 | | | | | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | |
| | 他府県私立 | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | |
| | 特別支援学校 | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| 定時制 | 京都市立 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 京都府立 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | |
| | 京都私立 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 他府県立 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 他府県私立 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 通信制 | 京都市立 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 京都府立 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | |
| | 京都私立 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| | 他府県立 | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 他府県私立 | 1 | | | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | 7 | 3 | 1 | 1 | 13 | 5 | 2 | 1 | 18 | 7 | 5 | 4 | 11 | 9 | 9 | 8 | 19 | 17 | 16 | 14 | 13 | 11 | 11 | 11 | | | | |

同時双方向型配信授業の支援があったから

意欲的に学習

入院して僕の人生は終わったと思ったけれど、僕の卒業のために多くの方が動いて下さり、感謝。一生懸命勉強する自分に気づいて驚いている。

復学支援

入院が長くなって、留年を決めたけど、高校の様子見てたら登校したくなった。1年生2回やってもいいから退院したら高校に行きたい！

退院後、初めての登校で

「おかえり」
「ありがとう！」
嬉しかった。涙が出た。

リアルには初めて
会う友達と交わした
言葉「久しぶり！」

入院していても在籍高校の生徒であり続けることができた。

「生徒を支えたい」と願う先生たちの配信方法の工夫で

オンデマンド型の支援。教室の授業を録画しながら、リアルタイムに一方向で配信。録画授業も視聴可。視聴(出席)確認は看護師。

配信機材を工夫し、スムーズなサポートにつながる方法を考えた。

アバターロボットの設置

機材に時間割をつける

病院側と教室の生徒の距離が近くなった

同時双方向型配信授業への感想

< 高校生 >

- 入院生活にメリハリがついて、時間を短く感じた。
- 友達と交流できた。
- 勉強の遅れが少なくなった。
- ずっと前からの友だちみたいだった。

< 高等学校の先生 >

- 生徒の学習する権利を保障する**なくてはならない仕組み**
- 病気を克服する上で、**非常に大きな支え**。
- 孤独感や、不安感を少しでも軽減するために、友達とのつながり、社会(学校)とのつながりを感じられる同時双方向型配信授業は**不可欠**。
- クラスメートとのやり取りが、**辛い治療の励み**になったと感じる。
- 対人関係に不安をもつ生徒の支援に役立つ**のではないかと期待される。

配信授業を受けることが叶わなかった生徒たちもいました

「高校生学習会に参加して」

オンライン学習会

勉強したり，大学生のみなさんとの時間はとても楽しかった。自分と年の近い人と話したりできて楽しかった。

学習会

病棟では一人でしたから、大学生のお姉さんと一緒に勉強したりする時間はとても楽しみで、励みになりました。早く退院して、勉強を頑張ろうと目標ができました。進学先を決める時、ボランティアのお姉さんと同じ大学に行きたいと思いました。

自学自習

ひとりで勉強するより、みんなでするほうが勉強が進んだ。病院では頭を使うことが少ない。学習は刺激になって良かった。

お話の流れ

1. 教育制度の見直し
2. 京都市における高校生支援の進め方
3. 学習支援の様子と成果
4. 課題～高校生支援の理解・啓発に向けて～



単位取得につながる配信授業継続のために

理解と啓発

遠隔教育の効果、必要性の啓発

支援のための組織の構築

教育、行政、医療の三者の協力連携
医教連携コーディネーターの配置

支援のための予算

同時双方向配信授業に対する支出（ICT物品、通信費）の予算化。

→平成19年度～令和3年度 整備事業からの支出。継続性を考えると、国、自治体からの支援（小児慢性特定疾病児童等自立支援事業）が望ましいことを課題としてあげてきた。

病気の時だからこそ行すべき教育があります

長期入院する高校生への理解

知ることから始まる



京都市立桃陽総合支援学校
京都府教育委員会

文部科学省委託「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業」



- ・ NPO法人未来ISSEY
- ・ 全国病弱教育研究会

公益財団法人ベネッセ
こども基金助成



厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「AYA世代がん患者に対する精神心理的支援プログラムおよび高校教育の提供方法の開発と実用化に関する研究」

がん等で入院する高校生の学習支援に関する情報のデータベース化

教育は治療のエネルギー！



ありがとうございました

長期入院療養中の高校生の学習支援について
～ICTを活用した遠隔教育の事例から成果と課題～

医教連携アドバイザー
元京都市立特別支援学校 教諭
篠原 淳子